

サテライト展示 浅野文庫所蔵資料紹介「学問所并北之明地共絵図」関係年表

和暦	西暦	藩主	学問所関連	日本や広島藩の主なできごと	
享保10年	1725	吉長	内白島の稽古屋敷内に講学所を設ける	この頃、徳川吉宗の享保の改革が推進される	
享保17年	1732			享保17～18年頃、凶作により広島藩の財政が窮迫する	
享保19年	1734		講学所を講学館と改称する		
寛保3年	1743		経費節減のため内白島の稽古屋敷を廃止、講学館も閉鎖となる		
宝暦2	1752	宗恒		宗恒、財政緊縮を柱とした宝暦改革により広島藩の財政再建を図る	
宝暦8	1758			宝暦の大火が起きる。広島城下の半域が罹災	
安永7年	1778	重晟	加藤定斎、学問所へ出勤を命じられる		
天明元年	1781		7代藩主浅野重晟、林甚左衛門（広島町奉行）、吉川禎蔵（勘定奉行頭取）に学問所用掛を命じ、増田来次・頼春水・香川南浜を藩儒として登用する		
天明2年	1782		2月 学問所を開設、入学式を行った。 -月 古学派と朱子学派の対立により、闇齋学派・朱子学派が西学で、古学派が東学で講義を行うことになった	天明の大飢饉	
天明3年	1783		6～7月 西学を竹舎、東学を松舎と改称した 7～8月 学問所の聖像が木主と決まり、浅野重晟が直筆で「至聖先師孔子神位」と書く 9月 頼春水、世子浅野斉賢の伴読となる		
天明4年	1784			この頃、広島藩内で打ちこわしが多く発生する	
天明5年	1785		11月 藩主重晟の意向により、江戸の広島藩上屋敷に講学所を開設する 12月 学問所の教育を朱子学に統一する（天明異学の禁）		
天明6年	1786		1月 頼春水があらたに「教授局掲示」等を著し、教学統一と異学排斥の意義を述べる 4月 学問所天文方を数学方と改称する		
天明7年	1787			松平定信の寛政の改革が始まる	
天明8年	1788		頼山陽、学問所に入学する		
寛政元年	1789		古学派の教授は学問所への出勤を止められ、門弟の教育は自宅で行うよう命ぜられた		
寛政2年	1790			寛政異学の禁	
寛政4年	1792		香川南浜が病没。藩主重晟は南浜の私塾修業堂の存続を命じた		
寛政5年	1793		修業堂を藩立の学塾とする		
寛政9年	1797		学問所教授金子楽山・頼春水・加藤定斎・植田周助・頼杏平らは連名で、学問所と修業堂の統合を求める意見書を藩へ提出		
文政11年	1828		齊賢	修業堂廃止	
弘化4年	1847		齊肅	上屋敷の火災で講学所焼失	
嘉永6年	1853				ペリー来航
安政4年	1857			藩士に学問所の聴講を奨励する	
文久2年	1862		長訓	講学所再興	辻将曹等により、文久改革が始まる
文久3年	1863	1月 西洋式の銃隊砲術を藩の軍備に改定。「東の明地」（学問所の北の空地）を練兵場とする 3月 練兵場東南の一隅（学問所聖廟裏の空地）に剣槍術の稽古場をつくり、後に練兵場とあわせて講武所と呼んだ -月 学問所内に寄宿寮を設け、句読師のほか熱心な生徒の入塾を許した。塾頭には山田十竹を命じたが、長州征討の時期に廃止された。			
元治元年	1864	9月 広島城本丸北方に練兵場を設け松原講武所と称したため、講武所の名称を東講武所と改める		第一次長州征討	
慶応2年	1866			薩長同盟締結	
慶応3年	1867	6月 山田十竹、学問所教授に任じられる		大政奉還・王政復古の大号令	
明治元年	1868	城内八丁馬場に学問所学塾として寄宿寮を再興。山田十竹を筆頭とする		明治維新	
明治2年	1869	3月 広島城内に洋学所を開校する 4月 賀茂郡志和村に文武塾を設け、英式練兵とともに漢学（儒学）を教授する 8月 学制を改革し、これまでの漢学・洋学の2校に加え、皇学（国学）・医学の2校を新設する		版籍奉還の請願が受理され、長勲は広島藩知事となる	
明治3年	1870	1月 軍隊は松原講武所、普通藩士の練兵および剣槍術の修行は東講武所で行うよう定める 8月 学問所を城内八丁馬場に移す。これに伴い洋学所・皇学所・医学所も移され、「修道館」と総称した -月 修道館に学問所の神位が移される			
明治4年	1871	10月 文部省の令達により、修道館が休業する 11月 講武所を廃止	廃藩置県、広島藩は広島県となる。長勲は広島藩知事を辞し、東京への移住を命じられる		
明治8年	1875	-	歩兵第11連隊が広島に編成される（歩兵第11連隊は、学問所があった三の丸東北に所在した）		
明治11年	1878		長勲、私立浅野学校設立		
明治14年	1881		山田十竹を校長とし、浅野学校を修道学校と改称する		
明治15年	1882			長勲、第2代イタリー王国公使に任じられる	
明治19年	1886		浅野家、修道学校の経営を中止する。山田十竹、長勲に頼んで「修道校」の額や「至聖先師孔子神位」の木主、学校の器物書籍などを受け、八丁堀の自宅を学舎として「私立修道学校」を経営する		
明治38年	1905		修道学校、文部省認可の修道中学校となる（現在の修道中学校、修道高等学校の前身）		